

○第4回分 意見・質問等とりまとめ

会議回	議事等	番号	意見・感想等 青文字は市教育委員会事務局の見解
4	グループワーク	1	新しいグループになり、新鮮な気持ちで取り組めた。
4	グループワーク	2	学校現場の内と外で考えていることがだいぶ違っていて楽しかった。
4	その他	3	次回からオンラインを実施してほしいです。 →第5回会議から実施します。
4	その他	4	<p>地域や社会との連携・協働の体制</p> <p>連携・協働の基本となる視点は、ア) 家庭・地域・学校が同じ目標に向かう。イ) 学校と地域が一体となって協力する。ウ) 地域が学校の応援団になる。エ) 生徒のふるさと愛を高める。の以上4点に集約されると思います。そのためには、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える「学校を核とした地域づくり」にほかならず、学校と地域がパートナーとして連携・協働して行う様々な活動と考えます。</p> <p>具体的には、A) 授業終了後または休業日において学校や社会教育施設等で地域の人材が行う学習。B) ボランティア活動、社会奉仕体験活動、自然体験活動、その他体験活動。C) 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して学校や社会教育施設等で行う教育活動。などが考えられます。</p> <p>例えば、地場産業の織物関係会社の視察学習、農業法人への職場体験学習、地域のボランティアによる登下校の見守り、部活動の支援、地域の職業人による出前授業の実施、地域清掃等のボランティア活動への参画、あいさつ運動の実施、縄文文化をはじめとする地域固有の歴史や「大地の芸術祭」「日本遺産」などのふるさとの魅力を生かした探求的な学習、そして保護者同士が学び合う学習の場の設置等が必要と考えます。</p> <p>学校・家庭・地域が一体となったコミュニティスクールこそ魅力あふれる学校づくりの原点と考えます。</p> <p>→要点に基づく具体的なご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>地域と学校が連携・協働する体制の確立は、未来の学校づくりにとって極めて重要なテーマです。十日町市が進めるコミュニティスクール制度では、学校運営に地域住民や保護者が積極的に関わり、地域の特色を生かした教育活動を行うこととしています。委員からのご提案にある「地域の職業人による出前授業」などは、地域の資源を最大限に活用した学習活動となり、子どもたちにとって貴重な学びの場となります。</p> <p>併せて、地域住民や自治体、地域の企業などと連携し、教育の充実を図る制度として地域学校協働活動があります。委員のご提案にある「ボランティア活動、社会奉仕体験活動」などにより地域の専門家や企業が教育活動に参加することで、子どもたちの学びがより実践的かつ多様化します。</p> <p>学校・家庭・地域が一体となったコミュニティスクールは、子どもたちにとって魅力的で意味のある学校づくりの原点であると考えることから、これらの活動を通じて、地域と学校が共に子どもたちの成長を支えるシステムを構築してまいります。</p>
4	その他	5	<p>通学条件・方法</p> <p>通学条件・方法は、学校の位置と深く関わっていると思います。資料によれば、徒歩や自転車による通学距離は「中学校では6km以内」、通学時間は「概ね1時間以内」を一応の目安としています。今般のグループワークでは、40分~45分の意見がありました。また、通学時間の有効活用についても言及がありました。具体的な交通手段としては、スクールバス（運転員の確保等の問題から、市内の全域からの路線が確保できるか？）、飯山線や北越急行の鉄道利用（飯山線は雪に弱い、冬期間の通学手段確保に課題が残る）、路線バスの活用（将来的に路線が確保できるか疑問が残る、路線数が少ない）。</p> <p>★学校立地にも大きく係わる問題です！（1校、2校、及び3校編成でも同様）</p> <p>下条・中条・水沢・中里はスクールバス+飯山線、松代・松之山はスクールバス+北越急行、川西・吉田・十日町・南はスクールバスまたは路線バス</p> <p>以上のような組み合わせが考えられると思います。</p> <p>→第5回会議資料にもありますように、公共交通路線は利用者の減少や運転手不足から年々減便及び廃線が続いている。ご提案いただいた交通網の組合せによる通学手段の確保は、生徒の通学の利便性のみならず、地域住民の生活交通を維持していくためにも有効な方法であると考えます。</p> <p>また、通学時間の有効活用についても検討を進めており、車内に通信回線を引き込むことで、デジタル教材による学習時間等の確保も図ってまいります。</p> <p>今後、部活動の地域展開も進み、平日の部活動も地域団体等による運営も考慮する必要があります。生徒の放課後の活動のあり方を含め、限られた交通資源の有効活用を進めていかなければならないと考えています。</p>